

「ディエゴ・リベラの時代」展担当の学芸員を表彰

2018年10月31日、東京

埼玉県立近代美術館学芸主幹の平野到氏は昨日、2017年10月21日から12月10日に開催された「ディエゴ・リベラの時代」展への功績を称えられ、西洋美術振興財団から毎年授与される「学術賞」を受賞しました。平野氏はメキシコ政府、特にメキシコ国立芸術院（INBA）からの支援に対し深い感謝の意を表しました。また同様に、様々な公共機関からの支援と協力、そして多くの人からの願いがあったからこそ、メキシコの芸術的遺産の一部であるディエゴ・リベラをはじめ彼の前後に活躍したメキシコ人芸術家らの作品を多数集めることができ、日本で初めてとなるグアナファト出身の偉大な芸術家の作品と時代の展示を実現することができたことと述べました。



一方、カルロス・アルマーダ駐日メキシコ大使は、素晴らしい「ディエゴ・リベラの時代」展の開催実現に対し、埼玉県立近代美術館と平野到学芸主幹を祝福するとともに感謝の意を表しました。また、130年におよぶ両国の外交関係において、多岐に渡る文化的つながりがメキシコと日本を結びつけ、また今もお互いを引き寄せ合っていることを強調するとともに、2年連続でメキシコに関連する展示会が名誉ある賞を受賞したことについて言及しました。昨年は世田谷美術館の塚田美紀学芸員が、アルバレス・ブラボ写真展「メキシコ、静かなる光と時」で受賞しました。


